

萩・長門清掃一部事務組合

地球温暖化対策実行計画 **進捗状況・最終結果**

●実行計画の概要

計画期間・・・平成 29 年度～平成 33 年度（5 年間）

基準年度・・・平成 27 年度

基準年度の温室効果ガスの排出量・・・6,937 t CO₂

温室効果ガス削減目標・・・18% 削減

●平成 29 年度の評価結果（実行計画 1 年目・終了後）

項 目	実 施 状 況		評 価 結 果
温室効果ガス の排出量(tCO ₂)	基準年度	平成 29 年度	基準年度との比較
	6,937	9,446	136.2 % (2,509 tCO ₂)
組合の事務事業 用紙・公用車燃料 水道施設 焼却灰の運搬	水道施設の電気使用量、焼却灰運搬の 燃料使用量が減少した。 その他は、ほとんど変化なし。		
廃棄物の焼却	ごみ量は減少したが、廃プラごみ量の 割合が増大したため温室効果ガスが増 えた。		ごみ減量化の啓発に努める必要が ある。
運営事業者が 管理する事業 廃棄物の焼却以外	焼却炉・非発・予備ボイラーの燃料使 用量が減少した。		
温室効果ガスの 削減 排熱利用 自然エネルギー利用	排熱回収発電機及び太陽光発電の発電 量が少量ではあるが増大した。		

萩・長門清掃一部事務組合

地球温暖化対策実行計画 **進捗状況・最終結果**

●実行計画の概要

計画期間・・・平成 29 年度～平成 33 年度（5 年間）

基準年度・・・平成 27 年度

基準年度の温室効果ガスの排出量・・・6,937 t CO₂

温室効果ガス削減目標・・・18% 削減

●平成 30 年度の評価結果（実行計画 2 年目・終了後）

項 目	実 施 状 況		評 価 結 果
温室効果ガス の排出量(tCO ₂)	基準年度	平成 30 年度	基準年度との比較
	6,937	7,383	106.4 % (446 tCO ₂)
組合の事務事業 用紙・公用車燃料 水道施設 焼却灰の運搬	水道施設の電気使用量、焼却灰運搬 の燃料使用量が減少した。 その他は、ほとんど変化なし。		
廃棄物の焼却	ごみ焼却量は増加したが、廃プラご み量が減少したが、温室効果ガスは 増加した。		温室効果ガスは減少したものの、 ごみ減量化の啓発に努める必要が ある。
運営事業者が 管理する事業 廃棄物の焼却以外	焼却炉・非発・予備ボイラーの燃料 使用量が減少した。		
温室効果ガスの 削減 排熱利用 自然エネルギー利用	排熱回収発電機の発電量は増加した また、太陽光発電の発電量が少量で はあるが増大した。		

萩・長門清掃一部事務組合

地球温暖化対策実行計画 **進捗状況**・最終結果

●実行計画の概要

計画期間・・・平成 29 年度～平成 33 年度（5 年間）

基準年度・・・平成 27 年度

基準年度の温室効果ガスの排出量・・・6,937 t CO₂

温室効果ガス削減目標・・・18% 削減

●令和元年度の評価結果（実行計画 3 年目・終了後）

項 目	実 施 状 況		評 価 結 果
温室効果ガス の排出量(tCO ₂)	基準年度	令和元年度	基準年度との比較
	6,937	7,482	107.9 %（545tCO ₂ ）
組合の事務事業 用紙・公用車燃料 水道施設 焼却灰の運搬	水道施設の電気使用量、焼却灰運搬 の燃料使用量が増加した。		
廃棄物の焼却	ごみ焼却量は増加に伴い廃プラごみ 量も増加しことにより、温室効果ガ スが増加した。		温室効果ガスは増加したことによ りごみ減量化の啓発に努める必要 がある。
運営事業者が 管理する事業 廃棄物の焼却以外	電気使用量が増加したが、焼却炉・ 非発・予備ボイラーの燃料使用量は 減少した。		
温室効果ガスの 削減 排熱利用 自然エネルギー利用	排熱回収発電機の発電量は設備の不 具合により減少した。また、太陽光 発電の発電量も減少した。風力発電 は少量ではあるが増加した。		

萩・長門清掃一部事務組合

地球温暖化対策実行計画 **進捗状況・最終結果**

●実行計画の概要

計画期間・・・平成 29 年度～平成 33 年度（5 年間）

基準年度・・・平成 27 年度

基準年度の温室効果ガスの排出量・・・6,937 t CO₂

温室効果ガス削減目標・・・18% 削減

●令和 2 年度の評価結果（実行計画 4 年目・終了後）

項 目	実 施 状 況		評 価 結 果
温室効果ガス の排出量(tCO ₂)	基準年度	令和 2 年度	基準年度との比較
	6,937	9, 552	137.7%（2, 615tCO ₂ ）
組合の事務事業 用紙・公用車燃料 水道施設 焼却灰の運搬	水道施設の電気使用量、焼却灰運搬 の燃料使用量が減少した。		
廃棄物の焼却	ごみ焼却量は減少したが、廃プラご み量が増加したため、温室効果ガス が増加した。		ごみ減量化の啓発に努める必要が ある。
運営事業者が 管理する事業 廃棄物の焼却以外	焼却炉・非発・予備ボイラーの燃料 使用量は減少した。		
温室効果ガスの 削減 排熱利用 自然エネルギー利用	スターリング発電機の発電量及び太 陽光発電の発電量が増加した。		

萩・長門清掃一部事務組合

地球温暖化対策実行計画 進捗状況・**最終結果**

●実行計画の概要

計画期間・・・平成 29 年度～令和 3 年度（5 年間）

基準年度・・・平成 27 年度

基準年度の温室効果ガスの排出量・・・6,937 t CO₂

温室効果ガス削減目標・・・18% 削減

●令和 3 年度の評価結果（実行計画 5 年目・終了後）

項 目	実 施 状 況		評 価 結 果
温室効果ガス の排出量(tCO ₂)	基準年度	令和 3 年度	基準年度との比較
	6,937	7,808	112.6% (871tCO ₂)
組合の事務事業 用紙・公用車燃料 水道施設 焼却灰の運搬	組合のコピー用紙、公用車の燃料、水道施設の電気、焼却灰の運搬燃料の使用量が増加した。		組合の事務事業の見直しに努める。
廃棄物の焼却	ごみ焼却量、廃プラごみ量が減少したため、温室効果ガスの排出量も減少した。		引続き、ごみ減量化の啓発に努める。
運営事業者が 管理する事業 廃棄物の焼却以外	焼却炉・非発・予備ボイラーの燃料使用量は減少した。 一方で、4 t ダンプの燃料使用量は増加した。		引続き、灯油等の燃料使用量の減少に努める。
温室効果ガスの 削減 排熱利用 自然エネルギー利用	スターリング発電機の発電量及び太陽光発電の発電量が減少した。		発電機の故障等が生じているため、部品の点検等に努める。